

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 安部 鉄也

〔題名〕

脳卒中患者2003人における3.0T MRIを用いた脳微小出血の検討

〔要旨〕

【背景・目的】

1.5T MRIと比較して、3.0T MRIは、脳微小出血(CMBs)の検出能に優れている。本研究は、3.0T MRIを用いて、脳卒中患者におけるCMBsの背景、危険因子、数と部位を調べた。

【方法】

脳卒中発生から1週間以内に治療を受けた2,003人の患者の臨床的特徴、危険因子、CMBsの数と位置に関して多変量解析を行った。

【結果】

CMBsは1,025人の患者に認められた。CMBsの数は計15,829個で虚血性脳卒中が9,410個、出血性脳卒中が6,419個であった。CMBsは、認知機能障害($p < 0.001$, OR = 1.514)、高血圧($p < 0.001$, OR = 3.145)、脳卒中の既往($p < 0.001$, OR = 1.782)、およびの出血性脳卒中($p < 0.001$, OR = 2.066)と関連していた。脳卒中発症前の抗血栓療法の有無はCMBsと関連していなかった。虚血性脳卒中では、small vessel occlusionで、出血性脳卒中の既往($p = 0.046$)、CMBsを有する患者数($p < 0.001$)、CMBsの総数 ($p < 0.001$)が多かった。

【結論】

CMBsはsmall vessel occlusionで多く認め、特に高血圧が重要な要因であった。CMBsの発生を予防するためにも、適切な降圧療法が行った上で抗血栓療法を導入する必要がある。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1550号	氏 名	安部 鉄也
論文審査担当者	主査教授	伊東 克彦	
	副査教授	鈴木 倫保	
	副査教授	神 田 隆	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
脳卒中患者 2003 人における 3.0T MRI を用いた脳微小出血の検討			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Cerebral Microbleeds Detected Using 3.0T Magnetic Resonance Imaging in 2,003 Patients with Ischemic or Hemorrhagic Stroke (虚血性脳卒中および出血性脳卒中患者 2003 人における 3.0T MRI を用いた脳微小出血の検討)			
掲載雑誌名 JMA Journal			
第2巻 第2号 P.164-173 (2019年9月掲載)			
(論文審査の要旨)			
【背景・目的】			
1.5T MRI と比較して、3.0T MRI は、脳微小出血(CMBs)の検出能に優れている。本研究は、3.0T MRI を用いて、脳卒中患者における CMBs の背景、危険因子、数と部位を調べた。			
【方法】			
脳卒中発生から 1 週間以内に治療を受けた 2,003 人の患者の臨床的特徴、危険因子、CMBs の数と位置に関して多変量解析を行った。			
【結果】			
CMBs は 1,025 人の患者に認めた。CMBs の数は計 15,829 個で虚血性脳卒中が 9,410 個、出血性脳卒中が 6,419 個であった。CMBs は、認知機能障害($p < 0.001$, OR = 1.514)、高血圧($p < 0.001$, OR = 3.145)、脳卒中の既往($p < 0.001$, OR = 1.782)、およびの出血性脳卒中($p < 0.001$, OR = 2.066)と関連していた。脳卒中発症前の抗血栓療法の有無は CMBs と関連していなかった。虚血性脳卒中では、small vessel occlusion で、出血性脳卒中の既往($p = 0.046$)、CMBs を有する患者数($p < 0.001$)、CMBs の総数 ($p < 0.001$)が多かった。			
【結論】			
CMBs は small vessel occlusion で多く認め、特に高血圧が重要な要因であった。CMBs の発生を予防するためにも、適切な降圧療法が行った上で抗血栓療法を導入する必要がある。			
本論文は、3.0T MRI のみを用い、CMBs の統計学的、病学的検討を行った論文である。今後、本論文の結果を進展させることで、CMBs を有する患者の血圧管理や抗血栓療法の使用について提言できる可能性があり、学位論文として価値のあるものと認めた。			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。